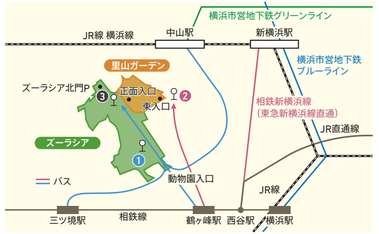
里山ガーデンはこんなところ



住所: 横浜市旭区上白根町1425-4（よこはま動物園ズーラシア隣接）

「ガーデンネックレス横浜」の会場の一つで、横浜動物の森公園エリア内の、森に囲まれた静かな場所に立地しています。

毎年春と秋に「里山ガーデンフェスタ」を開催しており、市内最大級、約10,000m2の大花壇が横浜の花で彩られます。

2023年秋の「里山ガーデンフェスタ」では、「躍動の丘」をテーマにセンニチコウやコスモス、サルビアなどで彩られた、華麗でダイナミックな景色の広がる大花壇が公開されました。

周辺には森が楽しめるアウトドアパーク「フォレストアドベンチャー・よこはま」や「よこはま動物園（ズーラシア）」があり、子どもから大人まで楽しめる場所となっています。

※大花壇は春と秋に期間限定で公開しています。

最寄り駅から里山ガーデンまでのバスアクセス

- 相鉄線「鶴ヶ峰」駅、「三ツ境」駅 JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン「中山」駅から バスで約20分 → ❶「よこはま動物園」バス停下車 → シャトルバス※里山ガーデンフェスタ期間中のみ運行 / または徒歩（約15分）※土休日は❶よこはま動物園北門まで延伸している路線があります。 → 里山ガーデン
- 相鉄線「鶴ヶ峰」駅から バスで約20分 → ❷「西ひかりが丘」バス停下車 → 徒歩（東入口まで約5分）（正面入口まで約15分） → 里山ガーデン

ガーデンネックレス横浜

「ガーデンネックレス横浜」は「ガーデンシティ横浜」を推進するリーディングプロジェクトです。

花や緑による美しい街並みや公園、自然豊かな里山など、横浜ならではの魅力を発信することで多くの方を横浜に呼び込み、まちの活性化や賑わいの創出につなげます。

また、市民の身近な場所で花や緑に関する取組を全市的に進め、花と緑にあふれる環境先進都市横浜の実現を目指します。

横浜市 緑に関わる計画の変遷

1970 / 1980 / 1990 / 2000 / 2010 / 2020 / 2030

- 1980 公園数1000か所を超える
- 1994 公園数2000か所を超える
- 1973 緑の環境をつくり育てる条例
- 1981 緑のマスタープラン
- 1984 公園・緑地等の管理基本計画
- 1997 緑の基本計画→2006 水と緑の基本計画
- 2009 横浜みどり税
- 2009 横浜みどりアップ計画
- 2011 生物多様性横浜行動計画
- 2015 横浜都市農業推進プラン
- 2017 第33回全国都市緑化よこはまフェア

※これまでのみどりアップ計画の成果の概要はこちらからご覧ください。

これからの緑の取組

横浜市でGREEN×EXPO 2027を開催します

2027年に、横浜市で国際園芸博覧会 GREEN×EXPO 2027を開催します。

「幸せを創る明日の風景」をテーマとし、花や緑との関わりを通じ、自然と共生した持続可能で幸福感が深まる社会の創造を提案、横浜から明日に向けた友好と平和のメッセージを発信します。

会場となるのは、旧上瀬谷通信施設です。横浜市の郊外部（旭区・瀬谷区）に位置するこの土地は、2015年に米軍から返還され、2020年3月には「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」が策定されました。

GREEN×EXPO 2027は、そこで示された「公園・防災地区」の全域と「観光・賑わい地区」の一部、約100haを活用して開催されます。

ロゴ

横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction（行動・活動）を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌

ご意見・ご感想をお待ちしています!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!

YokohamaみどりアップAction 第9号
（旧みどりアップQ）（市民推進会議広報誌第41号）令和x年x月発行

編集: 横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会
発行: 横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課（事務局）
TEL: 045-671-4214　FAX: 045-550-4093
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp

横浜みどりアップ計画
市民推進会議広報誌

Yokohama みどりアップ Action

市民が発信 Vol.9 2024.xx

里山ガーデンで考える

みどりアップ計画のこれまでと今後

横浜のみどりへの取組は1859年の開港当時に山手公園や横浜公園が整備されたことから始まり、時代の変遷による都市化の問題の解決に向けて様々な取組みが行われてきました。横浜みどりアップ計画もその1つです。

そこで、この「みどりアップ計画」を計画段階から15年間関わり、現在は緑の協会の理事長で里山ガーデンフェスタを開催されている橋本健氏をお訪ねし、「みどりアップ計画」のこれまでと、今後の展望についてお話を伺ってきました。

文：奥井 奈都美、国吉 純、高田 房枝、高橋 秀忠、村松 晶子、望月 正光

キャプションがここに入ります。

みどりアップ計画で これまで成し遂げてきたこと

みどりアップ計画は、「市民とともに次世代につなぐ森を育む」、「市民が身近に農を感じる場を作る」、「市民が実感できる緑や花をつくる」ついう3つの柱を掲げ、目標の実現を目指してきました。みどりアップ計画により、横浜の緑は確かに守られてきました。その成果は、市民の森が47カ所にまで増え、保全され水田を見ることができ、市民農園が各所に開設され、公共の場に花や木が植えられるなど、私たちも身近に目にしています。

橋本さんはこの計画に当初からずっと関わってきた思いを次のように語られました。

みどりアップ計画を15年続けてこられたのは、まず多くの市民の協力があってこそのことです。森や農地のほとんどは民有地ですから、多くの地権者の協力が不可欠でしたし、取組のすべては行政というよりは、企業、JA横浜、そして多くの市民が協力して進めることができたものです。まさに協働型公共事業といえる素晴らしいものになりました。しかも、市民・企業の負担となる「みどり税」によって進められたことに感謝しています。

市民のみどりへの大きな期待は、計画策定時の意識調査で、みどり税導入への賛成が税金徴収としては異例に多かったことにも表れています。現在の市に求める政策でも、コロナ下で外に出られない時期に身近なみどりを再認識した面もあって、「医療体制の充実」に次いで、「身近な自然の保全」が2位であり、多くの市民にみどりの保全が支持されています。みどりアップ計画を進めてきて本当に良かったと強く思っています。

キャプションがここに入ります。

横浜市職員として、第1期から横浜みどりアップ計画に携わる。2023年度からは公益財団法人横浜市緑の協会の理事長に就任し、ガーデンネックレス横浜を始めとした多くの取組みで横浜市と関わっている。

公益財団法人横浜緑の協会 理事長
ガーデンネックレス横浜実行委員会 委員長
橋本 健

近年、地球環境を守るためにSDGsや脱炭素の取組が進められています。世界的に新しい概念が打ち出されて、それをもとにした取り組みが広がってきています。

GX（グリーン トランスフォーメーション）、NP（ネイチャー ポジティブ）、NbS（ネイチャー ベイスド ソリューション）などです。

GXとは、環境問題の解決を省エネ機器や燃料電池や再生可能プラスチックといった化学的な分野の発明に頼るだけでなく、自然エネルギー中心に移行させるものです。NPとは、自然を回復させ生物多様性と自然の恩恵を活かして地球環境を守る考え方で、具体的な目標として、30 by 30という、陸域・海域の30%を守ることが挙げられています。

NbSとは、自然に根差した地球環境問題解決策です。

横浜市では、2006年に「水と緑の基本計画」を策定し、緑被率31%以上を目標としています。2009年から始めた「みどりアップ計画」で実施している取り組みは、ほぼNbSと同じです。世界の動向に先立って緑の取組を進めてきたことになります。これはすごいことだと思います。このような点も市民・企業の皆様に伝えたいと思います。

お話を伺って、多くの皆様に支えられてきた一方、大きく期待されていることを念頭に進めてこられたという橋本さんの思いに感銘を受けました。それと同時に、横浜市民の力は素晴らしいと思いました。森を守る愛護会や森ボランティア、農地と農業文化を守る農業ボランティア、花と緑のまちづくりを担うグループなど、多くの市民がみどりの活動をしています。そのような市民を支援する人材育成プログラムや助成金も用意されています。これからも市民の力を引き出して、行政と共に横浜市のみどりが守られていくことを願っています。

ガーデンネックレス横浜の取組

ガーデンネックレス横浜は、2017年の「全国都市緑化よこはまフェア」の時に始まりました。みなとエリアと里山ガーデンに7つのエリアを設け、それぞれの会場で花と緑を楽しむことができます。みなとエリアの春のガーデンネックレスは、港町よこはまの景観とともに桜やチューリップ、バラといった美しい花々を楽しめ、街を歩く人々の心をウキウキさせてくれます。この時期に横浜の街を歩くと、多くの市民や観光客が色鮮やかな花々の写真を撮っている姿を見かけ、横浜の“映えスポット”としても浸透しているように思えます。

一方里山ガーデンは、市内最大級となる1万㎡の大花壇を中心に季節ごとのテーマで100種類以上の花々が咲き誇り、訪れた人々を魅了します。近隣のズーラシアとともに家族や友達で一日楽しめる場所です。

全国都市緑化フェアは昭和58年にスタートして今年で40年の歴史がある全国的なイベントです。他県では大きな公園を会場にして開催することが多いのですが、2017年の横浜での開催は、街中の複数の公園を会場にして繋いでいくという形が取られました。港町横浜のたくさんの場所が花と緑を楽しめるスポットとなって繋がり街歩きを楽しめました。この花と緑の“繋がり”がネックレスを表現しているのですね。

その取り組みが好評であったため、ガーデンネックレス横浜はその後も継続して毎年開催され、現在に至ります。横浜の花と緑は市民の皆さんの暮らしの中にあり、愛され、親しまれています。

そしてさらに、このネックレスは未来へと繋がります。それが2027年に開催される「国際園芸博覧会「GREEN×EXPO 2027」です。ここに横浜の美しい自然、花と緑、農業が集結し、さらに、みどり豊かなまち横浜」を次世代に継承するために15年継続してきた横浜みどりアップ計画の成果を見ることができると楽しみにしています。

里山ガーデンを通じた花育・食育

ガーデンネックレスの会場の一つ、里山ガーデンのメインとなるのが大花壇です。大花壇は緩やかな傾斜を歩きながら花々を鑑賞できるようになっていて、街なかにはない自然豊かな里山の背景をバックにどの角度から見ても美しい景色を堪能することができます。市民の中には毎年楽しみに訪れている方も多いことでしょう。

今年のテーマは、浮世絵のような紫や橙色など色とりどりな秋の植物約100品種で構成された「躍動の丘」。中には、今人気のシックな色合いのグラス類や様々な種類を誇るサルビアや丸みのあるかわいい形のジニア類などが植っています。また大花壇に植えられている植物の「秋の花図鑑」が寄付に協力してもらった方に配布され、ガーデンに咲いている花の名前などを確かめながら楽しむことができます。

開期中には誰もが共に楽しめるように工夫したボランティアによるガーデンツアーがあり、同じグループの参加者同士で助け合いながら、そのグループなりの花畑の楽しみ方を見つけていました。またアンバサダーでもある三上博史さんが「花探し」シートを片手に子供達とガーデンを巡る花育も行われました。また、横浜でとれた新鮮で旬な野菜を使った地産地消のメニューを味わえるさまざまなジャンルのキッチンカーが日替わりで出店していました。

花苗のほぼ9割が市内の花卉農家さんが一年以上前から準備していたとのこと。このフェスタでいちばん要となる植物ですが、横浜市内には野菜や酪農だけではなく、美しい花を作る花卉農家さんがたくさん存在していることも知る機会となりました。そして来たる2027年のREEN×EXPO 2027でも、この里山ガーデンの大花壇を訪れた方や子供達が、花や植物、自然を体感し、世界各国の方々に横浜の花や自然を語り伝えていく伝道者としての準備が着々と行われていると感じました。

公益財団法人横浜市緑の協会とは？

昭和51年に任意団体「横浜市公園協会」として発足、昭和59年に「財団法人横浜市緑の協会」に名称変更、平成24年に神奈川県から公益認定を受けて「公益財団法人横浜市緑の協会」となりました。都市緑化の推進を図るとともに、市内3つの動物園、横浜山手西洋館、三ツ沢公園等の公園・施設の指定管理者として、様々な事業に取り組んでいます。

詳しくはこちら QRコード

横浜の緑の今後 ～GREEN×EXPO 2027に向けて

まとまりのある樹林地や農地がある横浜市の緑の10大拠点の1つに旧上瀬谷通信施設地区があります。

GREEN×EXPO 2027はこの場所で開催されます。

旧上瀬谷通信施設地区は「横浜市水と緑の基本計画（2006年策定、2016年改定）」では、首都圏全体を見据えた防災と環境再生の一大拠点と位置付けられています。

GREEN×EXPO 2027の「GREEN」は「植物」「花」「緑」を総称する言葉で、「自然」、「環境にやさしい」という意味を持ちます。気候変動など国際社会が抱える問題、我が国を取り巻く問題などについて、花・緑・農・食の面から展望し、上瀬谷地区の既存の自然環境をできる限り保全・活用します。

特に、自然環境が有する多様な機能を生かすグリーンインフラにより、持続可能な都市モデルを国内外に発信していきます。会場では、自然環境の特性を活用し、水と緑と風の道を効果的に取り入れます。樹木の保全や雨水浸透を生かした木陰や道路、花壇、施設などにより、来場者にとって安らぎや心地よさを感じる会場になるでしょう。

他にも、横浜市では、循環型社会への貢献として、下水道資源を農業に活用する実証事業がスタートしました。市内で発生する下水汚泥から植物の育成に必要なリンを回収し、肥料原料として活用します。このプロジェクトでは、回収リンを配合した肥料の本格利用開始をGREEN×EXPO 2027からと位置付けました。横浜生まれの肥料の普及が進めば、肥料の輸入に頼らない、資源循環を生み出すことができるでしょう。

園芸博覧会はこのような科学技術的なアプローチに加え、自然と人間の共生を目指す新しいアプローチを具体的に示す場だとし、橋本さんはこのようにおっしゃっていました。

横浜では市民力や企業・地権者、JA横浜の協力のもと、花と緑の取組を積極的に、先進的に進めてきました。市民・企業の皆さんとともに進めてきた「みどりアップ計画」や「ガーデンネックレス横浜」の成果を、協働しつつ華々しく発信する。そしてGREEN×EXPO 2027に参加した皆さんがさらに何かを実践し、つながりを広げていく。それが非常に楽しみなのです。

GREEN×EXPO 2027は期間限定イベントですが、開催後は、本博覧会の理念や取組みを継承する公園として「ガーデンシティ横浜」実現の一翼を担うでしょう。

最後に… Actionを起こそう！

橋本さんから現在世界が目標とする30%以上の健全な生態系の保全について、既に17年前の「水と緑の基本計画」（2006年策定）に掲げられていたと伺いました。将来を見据えた綿密な計画を横浜市民として誇りに思えました。また、橋本さんは、これからについてレガシーとして行政と市民・企業の皆さまの間を取り持ちたいとも述べられていましたが、緑の取組には市民一人ひとりの思いや行動が不可欠です。

「横浜みどりアップ計画」の目標達成のための3本の柱にはActionを起こせるメニューが多く用意されています。「森を育む」では、残された樹林地の保全について学び、活動する森ボランティアへの参加や、市民の森へ行ってみるのも良いでしょう。「農を感じる場をつくる」では農業体験や、収穫体験への参加や市民農業大学講座の受講もあります。地産地消で直売所へ行ってみると横浜で収穫された新鮮な野菜や果物に巡り合えます。「緑や花をつくる」では、地域の方と樹木や花を植える計画も実現します。2027年開催される国際花博覧会に向けて市民・企業・行政が一体となってActionを起こせば世界に横浜の緑の取組を発信できるでしょう。今日から緑豊かなまちづくりにActionを起こしましょう!!

キャプションがここに入ります。